

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
豊田市（愛知県）

全体総括

○計画期間：平成20年7月～平成25年3月（4年9月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、「活力」、「交通」、「環境」の分野において、それぞれ目標を定め各事業を実施してきた。

平成20年に発生したいわゆるリーマンショックによる景気後退により大型店の売上げ、宿泊施設の利用者数の減少など、大きな影響があつたものの、いずれの数値も、現在はリーマンショック以前の状況に回復している。指標には設けていなかったが、空き店舗の増加にも歯止めがかかっており、中心市街地に対する総合的な施策が好影響をもたらしている。

特に、豊田市駅周辺の商店街組織が実施した商店街飲み歩きイベントにより客の回遊が図られ、中心市街地のにぎわいに大きく寄与している。また、市内の商店街の会員数が減少傾向にあるなか、豊田市駅周辺の商店街の会員数は増加傾向にある。

中心市街地の商業者等で構成する“まちなか宣伝会議”が主催する「まちパワーフェスタ」等のイベントにおいては、市美術館、豊田スタジアムと連携するなど、商店街と公共施設の連携が進み、まちの一体感創出につながっている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標

毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した
- ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかつた（計画策定期と変化なし）
- ④活性化に至らなかつた（計画策定期より悪化）

【詳細を記載】

計画した71事業の状況は、完了23、実施中38、未実施10となっており、概ね順調に進んだ。（71事業の詳細は別紙のとおり。）なお、目標指標である平日の歩行者通行量・鉄道駅1日乗降客数を押し上

げる(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業等が実施されなかつたこともあり、目標値には達しなかつたものの、基準値からは増加しており、若干の活性化が図られた。

3. 活性化が図られた(図られなかつた)要因(豊田市としての見解)

まちなかでの店舗進出等を支援する商業業務誘致奨励事業が、景気後退の影響を受けて伸びず、また、集客効果を期待していた(仮)豊田市駅総合整備事業が事業主体の経営事情により事業を延期していること等により、大きな集客効果をもたらす核事業を欠いた。一方で、景気後退や基幹産業の減速により、中心市街地における事業所の撤退が見られるなどのマイナス要素が現れ、目標には達しなかつた。

しかしながら、計画策定により機運が高まった民事業のうち、特に飲食関係事業は広がりを見せ、空き店舗活用と集客イベント(はしご酒)を展開する飲食店ストリート構築事業のほか、周辺商店街においても「駅前バル」「小坂飲み歩き・食べ歩き」等が展開された。また、これらの事業効果もあって、中心市街地の飲食店に新規出店が見られた結果、厳しい社会経済情勢の中で、夜間の歩行者通行量は平成21年以降増加傾向となり成果を上げた。また、空き店舗数の増加に歯止めがかかった。

以上の計画事業等の推進により歩行者通行量や鉄道乗降客数は基準値を上回り、中心市街地の若干の活性化が図られたと言える。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

第1期計画では、竹生線整備等の事業が順調に進捗したものの、リーマンショック等の影響による未曾有の景気後退により、市民目線には活性化が進んだとは言えない状況でもあつた。

第2期計画ではアミューズメント施設の整備による来街者の増加、マンション及び福祉施設建設による居住者の増加が期待できる一方、これに対応する駐車場能力の確保が課題と認識している。

今後は、再開発を核とした事業展開による、まちの魅力向上・持続的な成長・発展に向け、官民を挙げて努力していくことが必要である。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかつた(計画策定時と変化なし)
- ④活性化に至らなかつた(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

『平成23年度豊田市中心市街地に関する市民意識調査』

・調査時期

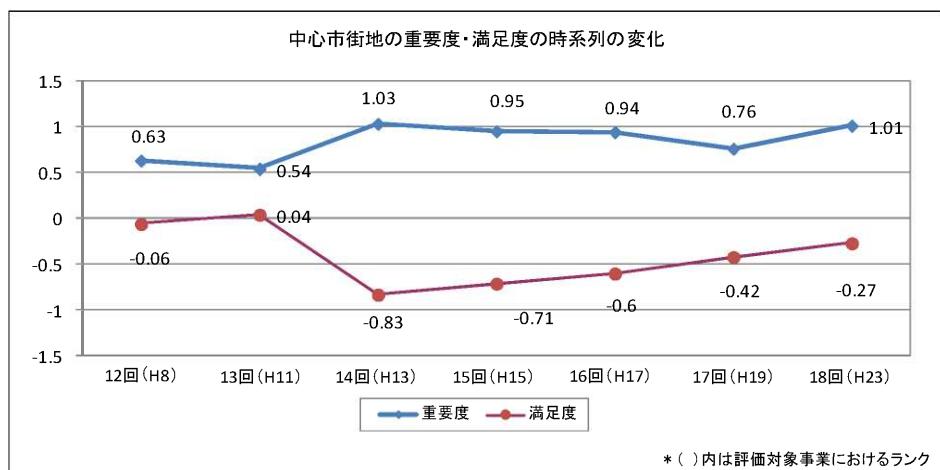
平成24年1月19日～1月31日(13日間/配布・回収期間)

・調査方法

郵送による配布・回収、自己記入アンケート方式

・調査対象者・サンプル数

市内在住3か月以上で、20歳以上の男女1,997件(無作為抽出)のうち、1,059件を回収
(回収率53.0%)

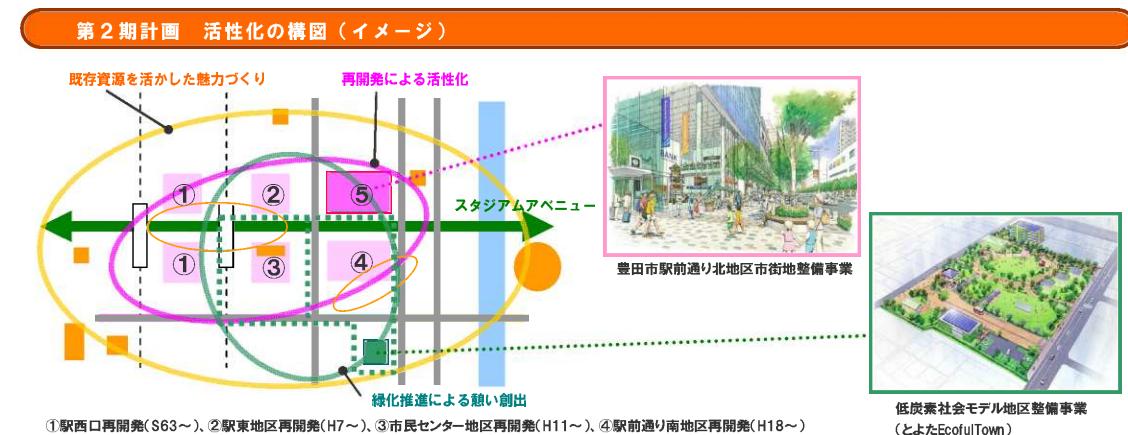
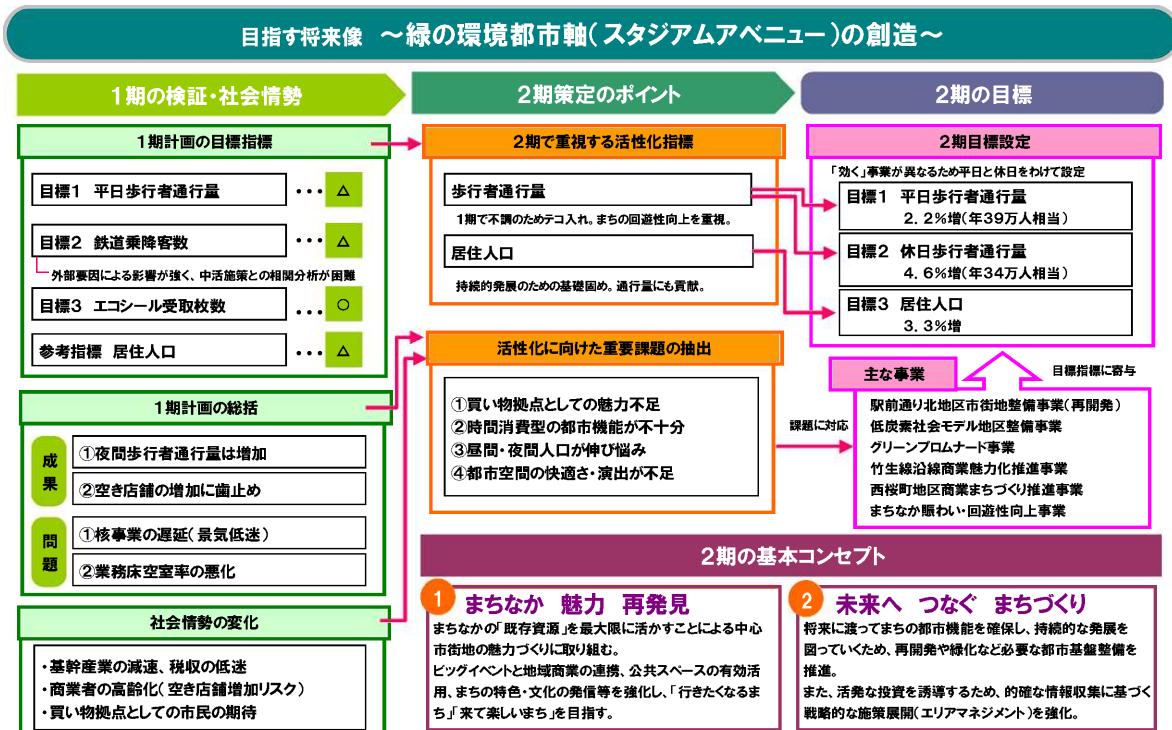


※上図の重要度及び満足度の数値は、「大変満足=2点、満足=1点、どちらでもない=0点、不満=-1点、大いに不満=-2点」という方式で点数化し、
その点数を加重平均した数値。加重平均の数値が+2点であれば、すべての回答者が「大変満足」「大変重要」と答えたことを意味する。

平成12年の豊田そごう撤退、平成13年の豊田サティ撤退が相次いだ時期を契機に大きく変化している。満足度は、依然、低水準であるものの着実に向上了。重要度は、今回の調査結果で、豊田そごう、豊田サティ撤退直後の調査(平成13年度)当時と同じ水準まで高くなつた。

6. 今後の取組

平成25年3月29日に国の認定を受けた第2期豊田市中心市街地活性化基本計画((平成25年4月～平成30年3月(5年0か月))を着実に推進し、第1期計画で伸び悩んだ歩行者通行量へのテコ入れを重視するほか、居住人口の押上げを図るため、重要課題に対応した事業を的確に展開し、中心市街地の活性化を図っていく。



(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
活力とにぎわいの創出	平日の歩行者通行量	25,788 人 (H19)	30,500 人	26,978 人	(H25.3)	<u>b</u>
公共交通と自動車交通が調和した交通体系の実現	鉄道駅1日乗降客数	36,477 人 (H18)	45,300 人	41,128 人	(H25.3)	<u>b</u>
環境に配慮したまちづくりの実践	エコシール年間受取枚数	400,000 枚 (H17)	500,000 枚	719,193 枚 (推計値)	(H25.3)	A

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値は超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

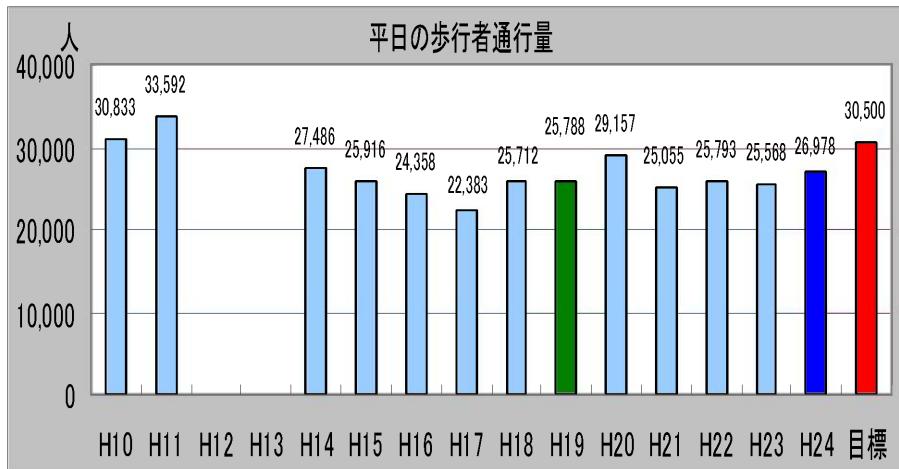
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標「活力とにぎわいの創出」

「平日の歩行者通行量」※目標設定の考え方（基本計画 P51～P55 参照）

1. 目標達成状況の総括



年	(単位) 人
H19	25,788 (基準年値)
H20	29,157
H21	25,055
H22	25,793
H23	25,568
H24	26,978 (目標 30,500)

※調査方法；計測地点において実測

※調査月；各年 10～11 月の平日 1 日

※調査主体；豊田市

※調査対象；歩行者のみ平日 7 地点（H12、H13 は未実施）

【総括】

第1期計画の目標指標としていた平日歩行者通行量(7地点)については、平成 24 年度は 26,978 人となり、目標の 30,500 人には届かなかった。また、主要事業として掲げた 6 事業の目標達成状況については、2 事業が達成し、4 事業が未達成となった。

目標の 30,500 人に届かなかった要因は、リーマンショックによる景気後退により大型店の売上げ、宿泊施設の利用者数の減少など、大きな影響があった。また、核事業でもある(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業が未実施となったことも要因である。

なお、現在はリーマンショック以前の状況に回復している。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. (仮) 名鉄豊田市駅総合整備事業（名古屋鉄道株）

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了時期	平成 21 年度～
事 業 概 要	豊田市の玄関口である名鉄豊田市駅の耐震補強を推進するとともに、まちの結節点として、回遊を生み出す整備を行う。また、1階商業フロアのテナントミックスを実施し、利用者の利便性・快適性を向上させる。

目標値・最新値	(目標値)21,620人(19,120人[H19]から2,500人増加) (最新値)21,342人(2,222人増加)
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかつた)理由	平成21年度に一部区間(駅北側駐輪場部分)の耐震補強工事を実施した。しかしながら、平成22年度の耐震補強(駅中央テナント入居部分)及び平成23年度のテナントミックスについては、事業主体の経営事情により事業の延期が決まっている。(時期は未定)
計画終了後の状況 (事業効果)	未実施
(仮)名鉄豊田市駅総合整備事業事業の今後について	第2期豊田市中心市街地活性化基本計画においては、豊田市駅耐震化事業として計画している。

②. 産業文化センターリニューアル事業(豊田市)

支援措置名及び 支援期間	まちづくり交付金 平成19年度～平成20年度
事業開始・完了時期	平成19年度～平成20年度
事業概要	産業文化センターは、地域産業・文化の中心拠点として、産業文化センター・とよた男女共同参画センター、教養文化センターの3施設を併設する施設である。今回のリニューアルにより、スロープや手すり、点字ブロック等を整備し、施設のバリアフリー化を図るとともに、憩いの場としての芝生広場やウッドデッキの整備、また夜間照明等都市景観に配慮した高質な施設として整備し、利用促進を図る。
目標値・最新値	(目標値)1,669人(1,479人[H19]から190人増加) (最新値)1,535人(1,479人[H19]から56人増加)
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかつた)理由	H20年度にバリアフリー化、景観整備を完了したが、車での施設利用者が多く、目標の達成には至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	施設利用者数が増加した。 561,967人[H24](472,856人[H19]から89,111人増加)
産業文化センターリニューアル事業の今後について	引き続き利用促進を図る。

③商業・業務機能誘致奨励事業（豊田市）

支援措置名及び 支援期間	豊田市商業振興条例 平成 17 年度～
事業開始・完了時期	平成 17 年度～
事 業 概 要	商業・業務機能の集積を図るため、1,000 m ² 以上の売場面積を取得した事業者に対し、開業後5年間の固定資産税、都市計画税、事業所税納稅額相当額を奨励金として交付する。
目標値・最新値	(目標値) 20,120 人 (19,120 人[H19]から 1,000 人増加) (最新値) 21,342 人 (19,120 人[H19]から 2,222 人増加)
達 成 状 況	目標達成
達成した（出来 なかつた）理由	ホテルやスポーツ施設等4件の申請があり、固定資産税等に相当する奨励金を支出。施設利用者による歩行者通行量の押し上げに寄与した。
計画終了後の状況 (事業効果)	事業の対象となった4事業者は順調に運営されており、中心市街地の活性化に貢献している。また、事業者による催し等も実施され、中心市街地の活力と賑わいの創出に貢献している。
商業・業務機能 誘致奨励事業の 今後について	第2期豊田市中心市街地活性化基本計画においても継続実施予定。

④. 飲食店ストリート構築事業（西町商店街（協）、豊田まちづくり株）

支援措置名及び 支援期間	豊田市中小企業団体等事業費補助金 平成 21 年度～
事業開始・完了時期	平成 21 年度～
事 業 概 要	名鉄豊田市駅西の緑陰歩道沿いにある空き店舗を活用し、飲食店及び必要業種の店舗を導入し、商業集積を図る。また、話題性のある集客イベントを実施し、来街者の増加を図る。
目標値・最新値	(目標値) 2,288 人 (1,988 人[H19]から 300 人増加) (最新値) 2,020 人 (1,988 人[H19]から 32 人増加)
達 成 状 況	目標未達成
達成した（出来 なかつた）理由	空き店舗を活用した飲食店誘致(1 件)、はしご酒イベントの実施(年 2 回)により夜間の歩行者通行量が増加したが、目標の達成までには至らなかつた。
計画終了後の状況 (事業効果)	同事業の波及効果として少なくとも 4 件の新規飲食店が開業した。
飲食店ストリー ト構築事業の今	商業振興条例に基づく、商業機能等配置実行計画において見直しを行う。

後について	
⑤. 老舗街道づくり推進事業（一番街商店街（振）、ひまわり通り商店街（振））	
支援措置名及び 支援期間	豊田市中小企業団体等事業費補助金 平成 20 年度～
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事 業 概 要	名鉄豊田市駅の東、約 300mを南北に走る竹生線の整備に合わせ、50 年以上続く老舗や専門店が多いことから、この通りを「老舗街道」と位置づけ、景観整備や「まちかど博物館」を実施する。
目標値・最新値	(目標値) 3,681 人 (3,201 人[H19]から 480 人増加) (最新値) 2,081 人 (3,201 人[H19]から 1,120 人減少)
達 成 状 況	目標未達成
達成した（出来 なかつた）理由	H21 年から商店街の特色づくりとしてまちかど博物館を実施したが、歩行者通行量は増えなかつた。
計画終了後の状況 (事業効果)	継続実施中
老舗街道づくり 推進事業の今後 について	第2期豊田市中心市街地活性化基本計画においては、竹生線沿線商業魅力化推進事業として、空き店舗の誘致等を行っていく。
⑥. 中心市街地共同住宅供給事業（豊田市）	
支援措置名及び 支援期間	中心市街地共同住宅供給事業費補助 平成 20 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 25 年度
事 業 概 要	まちなか居住促進にかかる各種施策等による居住人口増加により、歩行者通行量の増加が見込まれる。
目標値・最新値	(目標値) 24,619 人 (24,309 人[H19]から 340 人増加) (最新値) 25,443 人 (24,309 人[H19]から 1,134 人増加)
達 成 状 況	目標達成
達成した（出来 なかつた）理由	制度の利用促進のため、H21 年度に緑化率、空地率の要件緩和を実施。豊田市小坂本町三丁目地区優良建物整備事業として、平成23年にマンション1棟69戸が整備され、全戸完売し、関連地点の歩行者通行量が大きく伸びた。
計画終了後の状況 (事業効果)	全戸完売し、まちなか居住が推進された。
中心市街地共同	継続実施

住宅供給事業の 今後について	
-------------------	--

3.今後について

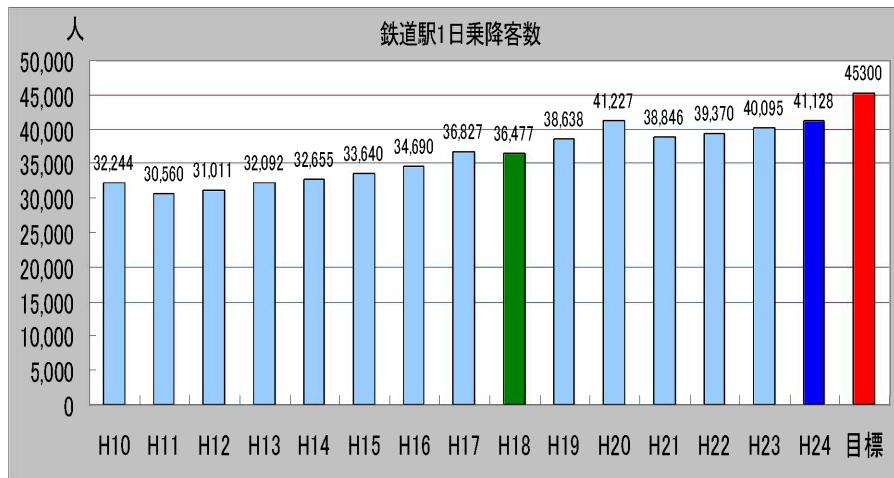
第2期計画では「平日歩行者通行量」と「休日歩行者通行量」を分けて、それぞれを1つの目標指標として設定する。製造業中心の本市では、「平日＝仕事」「休日＝余暇」というライフスタイルで生活する家庭が大半であり、中心市街地の歩行者通行量を左右する要素が平日と休日では大きく異なるという特性がある。また、施策の効果測定を的確に行うためにも、平日と休日を分けて目標設定することとし第1期計画で伸び悩んだ歩行者通行量へのテコ入れを重視する。

個別目標

目標「公共交通と自動車交通が調和した交通体系の実現」

「鉄道駅 1 日乗降客数」※目標設定の考え方（基本計画 P51～P55 参照）

1. 目標達成状況の総括



年	(単位) 人
H18	36,477 (基準年値)
H20	41,227
H21	38,846
H22	39,370
H23	40,095
H24	41,128 (目標 45,300)

※調査月：年間 1 日平均乗降客数

※調査主体：名古屋鉄道(株)、愛知環状鉄道(株)

※調査対象：名古屋鉄道豊田市駅、愛知環状鉄道新豊田駅

【総括】

第1期計画の目標指標としていた鉄道駅1日乗降客数については、平成 24 年度は 41,128 人となり、目標の 45,300 人には届かなかった。また、主要事業として掲げた 7 事業の目標達成状況については、4 事業が達成し、3 事業が未達成となった。

目標の 45,300 人に届かなかった要因は、歩行者通行量と同様に、リーマンショックの影響があつたためと思われる。また、老舗街道づくり推進事業については、想定していた目標値を下回った。

なお、現在はリーマンショック以前の状況に回復している。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① 飲食店ストリート構築事業（西町商店街（協）、豊田まちづくり(株)

【再掲】P8

支援措置名及び 支援期間	豊田市中小企業団体等事業費補助金 平成 21 年度～
事業開始・完了時期	平成 21 年度～
事 業 概 要	名鉄豊田市駅西の緑陰歩道沿いにある空き店舗を活用し、飲食店及び必要業種の店舗を導入し、商業集積を図る。また、話題性のある集客イベント

	を実施し、来街者の増加を図る。
目標値・最新値	(目標値)180人増加(300人/日×30%×2=180人/日) (最新値)19人増加(32人/日×30%×2=19人/日)
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかつた)理由	H22年10月に空き店舗活用による飲食店を誘致・開店。はしご酒イベントをH21年10月に第1回開催。以後年2回開催しているものの、歩行者通行量が伸び悩み、目標の達成には至らなかつた。
計画終了後の状況 (事業効果)	同事業の波及効果として少なくとも4件の新規飲食店が開業した。
飲食店ストリート構築事業の今後について	商業振興条例に基づく、商業機能等配置実行計画において見直しを行う。

②. 老舗街道づくり推進事業（一番街商店街（振）、ひまわり通り商店街（振））【再掲】P8参照

支援措置名及び 支援期間	豊田市中小企業団体等事業費補助金 平成20年度～
事業開始・完了時期	平成20年度～
事業概要	名鉄豊田市駅の東、約300mを南北に走る竹生線の整備に合わせ、50年以上続く老舗や専門店が多いことから、この通りを「老舗街道」と位置づけ、景観整備や「まちかど博物館」を実施する。
目標値・最新値	(目標値)280人増加(480人/日×30%×2=280人/日) (最新値)672人減少(-1,120人/日×30%×2=-672人/日)
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかつた)理由	H21年から商店街の特色づくりとしてまちかど博物館を実施したが、歩行者通行量は増えなかつた。
計画終了後の状況 (事業効果)	継続実施中
老舗街道づくり 推進事業の今後について	第2期豊田市中心市街地活性化基本計画においては、竹生線沿線商業魅力化推進事業として、空き店舗の誘致等を行っていく。

③産業文化センターリニューアル事業（豊田市）

【再掲】P8 参照

支援措置名及び 支援期間	まちづくり交付金 平成19年度～平成20年度
事業開始・完了時期	平成19年度～平成20年度
事業概要	産業文化センターは、地域産業・文化の中心拠点として、産業文化センタ

	一・とよた男女共同参画センター、教養文化センターの3施設を併設する施設である。今回のリニューアルにより、スロープや手すり、点字ブロック等を整備し、施設のバリアフリー化を図るとともに、憩いの場としての芝生広場やウッドデッキの整備、また夜間照明等都市景観に配慮した高質な施設として整備し、利用促進を図る。
目標値・最新値	(目標値) 110 人増加(190 人/日 × 30% × 2 ÷ 110 人/日) (最新値) 33 人増加(56 人/日 × 30% × 2 ÷ 33 人/日)
達成状況	目標未達成
計画終了後の状況 (事業効果)	施設利用者数が増加した。 561,967 人[H24] (472,856 人[H19]から 89,111 人増加)
産業文化センター リニューアル 事業の今後について	引き続き利用促進を図る。

④ 地域共通交通 IC カード導入事業（豊田市、民間（交通事業者））

支援措置名及び 支援期間	
事業開始・完了時期	平成 18 年度～
事業概要	鉄道やバスの運賃の支払いに共有して使える IC カードを導入する。
目標値・最新値	(目標値) 1,200 人増加(駐車場利用台数 3,658,378 台/年 ÷ 365 日/年 × 鉄道転換率 3% × 平均乗車人員 2 人/台 × 2 ÷ 1,200 人/日) (最新値) 1,227 人増加(駐車場利用台数 3,732,758 台/年 ÷ 365 日/年 × 鉄道転換率 3% × 平均乗車人員 2 人/台 × 2 ÷ 1,227 人/日)
達成状況	目標達成
達成した（出来なかつた）理由	フリーパーキング事業の実施により、駐車場利用台数が増加し、目標は達成されているが、事業は関係事業者の調整が難航したため未実施。
計画終了後の状況 (事業効果)	実施に向け検討中。
地域共通交通 IC カード導入 事業の今後について	第2期豊田市中心市街地活性化基本計画においては、共通 IC カード導入事業として継続。

⑤ 商業・業務機能誘致奨励事業（豊田市）

【再掲】P7参照

支援措置名及び	豊田市商業振興条例
---------	-----------

支援期間	平成 17 年度～
事業開始・完了時期	平成 17 年度～
事 業 概 要	商業・業務機能の集積を図るため、1,000 m ² 以上の売場面積を取得した事業者に対し、開業後5年間の固定資産税、都市計画税、事業所税納税額相当額を奨励金として交付する。
目標値・最新値	(目標値) 600 人増加(1,000 人×鉄道分担率 30%×2 ≈ 600 人/日) (最新値) 1,333 人増加(2,222 人×鉄道分担率 30%×2 ≈ 1,333 人/日)
達 成 状 況	目標達成
達成した（出来なかつた）理由	ホテルやスポーツ施設等4件の申請があり、固定資産税等に相当する奨励金を支出。施設利用者による歩行者通行量及び鉄道乗降客数の押し上げに寄与した。
計画終了後の状況 (事業効果)	事業の対象となった4事業者は順調に運営されており、中心市街地の活性化に貢献している。また、事業者による催し等も実施され、中心市街地の活力と賑わいの創出に貢献している。
商業・業務機能 誘致奨励事業の 今後について	第2期豊田市中心市街地活性化基本計画においても継続実施予定。

⑥. 中心市街地共同住宅供給事業（豊田市）

【再掲】P9参照

支援措置名及び 支援期間	中心市街地共同住宅供給事業費補助 平成 20 年度～平成 25 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 25 年度
事 業 概 要	まちなか居住促進にかかる各種施策等による居住人口増加により、歩行者通行量の増加が見込まれる。
目標値・最新値	(目標値) 210 人増加(1,080 人×鉄道分担率 10%×2 ≈ 210 人/日) (最新値) 118 人増加(590 人×鉄道分担率 10%×2 ≈ 118 人/日)
達 成 状 況	目標未達成
達成した（出来なかつた）理由	制度の利用促進のため、H21 年度に緑化率、空地率の要件緩和を実施。豊田市小坂本町三丁目地区優良建物整備事業として、平成23年にマンション1棟69戸が整備され、全戸完売し、中心市街地居住人口を押し上げた。しかしながら、中活事業全体の推進により1,080 人の居住人口の増加を見込んでいたものの、590 人の増加に留まり、目標の達成に至らなかった。
計画終了後の状況 (事業効果)	全戸完売し、まちなか居住が推進された。
中心市街地共同 住宅供給事業の	継続実施

今後について	
⑦. フリーパーキング事業	
支援措置名及び 支援期間	豊田市商業活性化推進交付金 平成 20 年度～平成 24 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 24 年度
事 業 概 要	加盟店(店舗・施設)で買い物・利用すれば、加盟駐車場の駐車料金が 3 時間無料になる。
目標値・最新値	(目標値)2,000 人増加(駐車場利用台数 3,658,378 台/年 ÷ 365 日/年 × 鉄道転換率 5% × 平均乗車人員 2 人/台 × 2 ≈ 2,000 人/日) (最新値)2,045 人増加(駐車場利用台数 3,732,758 台/年 ÷ 365 日/年 × 鉄道転換率 5% × 平均乗車人員 2 人/台 × 2 ≈ 2,045 人/日)
達 成 状 況	目標達成
達成した(出来なかつた)理由	中心市街地 16 駐車場と加盟店舗等が一体となって、店舗利用者等に対する駐車料金 3 時間無料制度を実施し、駐車場利用台数及び歩行者共に向上した。
計画終了後の状況 (事業効果)	中心市街地活性化の基盤として大いに貢献している。
フリーパーキング事業の今後に ついて	第2期豊田市中心市街地活性化基本計画においては、豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業の課題に対応し、フリーパーキング再整備事業として実施する。

3. 今後について

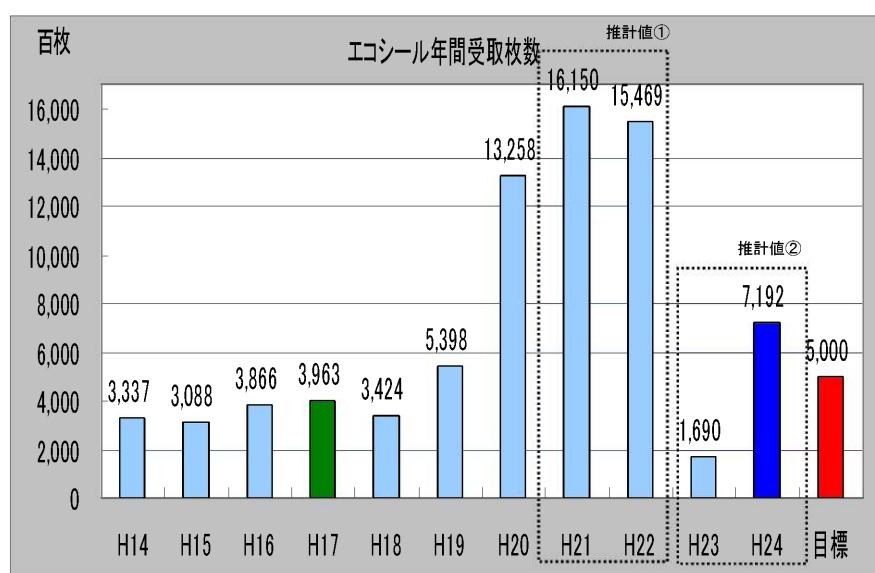
鉄道駅 1 日乗降客数については、多くの通勤客が目的地としている企業本社が中心市街地から 1 駅離れた場所に立地しており、中心市街地の駅は通勤の通過点となっている地理特性上、中心市街地活性化の施策展開による寄与度よりも、景気や雇用情勢などが乗降客数を大きく左右する構造にある。よって、中心市街地活性化施策の貢献度が測定しにくいという面があるため、第 2 期においては目標指標には設定せず、中心市街地の状況を確認する統計的データのひとつとして管理していくが、引き続き公共交通利用の促進を図る取組みを行っていく。

個別目標

目標「環境に配慮したまちづくりの実践」

「エコシール年間受取枚数」※目標設定の考え方（基本計画 P61～P64 参照）

1. 目標達成状況の総括



※調査月：年間受取枚数（年間数値は、翌年度6月頃に確定）

※調査主体：豊田市

※調査対象：加盟店のエコシール発行枚数から算出

推計値①…加盟店のエコシール配布の対象者数の報告により推計（H21、H22）

推計値②…エコポイントの市内総付与数をエコシールとして換算し推計（シール1枚を5円、1ポイントを0.74円で換算）（H23、H24）

【総括】

「エコシール受取枚数」とは、「中心市街地のエコシール制度加盟店が、利用客に配布するため、制度事務局から買い取るエコシールの枚数」を意味し、平成18年度時点の40万枚を基準値として25%増の50万枚とすることを目標としていた。

しかし、平成19年に本市が展開した「マイバック持参運動」が大きな成果を上げ、さらに平成20年には大型スーパーにおいて「レジ袋の有料化」が開始されることとなった。これらの施策展開によりレジ袋を断る利用客の増加が予想をはるかに超えて、目標である「エコシール受取枚数」も目標水準をはるかにクリアした数値となった。その後、シールという紙媒体を見直し、平成21年6月から電子媒体化（エコポイント制度）したため、当該目標指標の測定ができなくなった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. フラワーロード事業（豊田市、民間）

支援措置名及び

支援期間	
事業開始・完了時期	平成 15 年度～平成 26 年度
事 業 概 要	豊田市停車場線を始め、豊田市駅周辺を含む主要幹線道路への花飾りを実施する。花苗、用土等原材料は市が負担し、植替え・日常管理は地域住民が行う。
目標値・最新値	(目標値) 13,000 枚増加(25,800 枚[H18])
達 成 状 況	
達成した（出来なかった）理由	エコシール制度が終了したため、数値管理ができない状況となった。
計画終了後の状況（事業効果）	ボランティア団体による花飾り事業を実施中。
フラワーロード事業の今後について	継続実施予定

②. (仮) 公共交通機関利用促進事業 ((協) 豊田市商店街連盟)

支援措置名及び支援期間	
事業開始・完了時期	平成 20 年度～
事 業 概 要	当事業は、公共交通機関の利用によるエコシールの配布や、バス利用の来街者の中心市街地での買物に対する帰りの公共交通機関運賃割引などを実施する事業である。
目標値・最新値	(目標値) 57,000 枚増加(12 枚/日 × 13 路線 × 365 日 ÷ 57,000 枚)
達 成 状 況	
達成した（出来なかった）理由	エコシール制度が終了したため、数値管理ができない状況となった。 なお、H19 年に社会実験として、バス利用者が買い物した場合に共通回数券を交付。以後、実用化に向けた検討を行っているが、エコシール(現在はエコポイント)の付与の基準や事業費の負担割合、商店街利用割引方法等諸課題が解決しておらず、現時点では本格実施に至っていない。
計画終了後の状況（事業効果）	同上
(仮) 公共交通機関利用促進事業の今後について	未定

③. 商店街エコフレンドリー事業 ((協)豊田市商店街連盟)

支援措置名及び 支援期間	豊田市中小企業団体等事業費補助金 平成 19 年度～平成 21 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度～
事 業 概 要	エコバックやマイ箸の普及、店舗から出るゴミの集積場の整備を実施し、環境に配慮した商業環境を構築することで、イメージアップを図る。 市内で加盟している店舗は 225 店舗（平成 18 年度時点）あるが、中心市街地で加盟していない店舗が本事業に参加しエコシールを配布することを推進し、20 店舗程度の増加を目指す。また、現在の 1 店舗あたりの平均配布枚数は約 1,500 枚（大型店を除く）となっており、以下の受取枚数増加が見込まれる。
目標値・最新値	(目標値) 30,000 枚増加(20 店舗×1,500 枚=30,000 枚)
達 成 状 況	
達成した（出来 なかつた）理由	エコシール制度が終了したため、数値管理ができない状況となった。
計画終了後の状況 (事業効果)	エコシールの配布やエコ診断、エコマップの作成を実施。
商店街エコフレ ンドリー事業の 今後について	シールの電子媒体化（エコポイント制度）により事業を終了し、今後の実施の予定なし。

3.今後について

環境に関する新たな目標指標を検討したが適切なものは見当たらず、また「エコシール＝中心市街地活性化」という説明がわかりにくいという関係者意見もあったため、第 2 期においては環境に関する目標指標は設定せず、「施策展開を行う上で常に意識すべき重要テーマ」という位置付けにしていくこととする。